第29回 市長と話そうの様子

開催日時	2026年7月13日（月）　9:45　～　11:00	場所	サーラ・デ・うすき　つまみキッチン
団体名	八町大路火災復興事業ワーキンググループ		
団体概要	令和６年臼杵市八町大路火災からの復興を考える民間の任意団体である「八町大路火災復興連携会議」で作成した復興方針について、具体的な内容を検討するためのワーキンググループです。		
話し合いのテーマ	八町大路火災復興について		
参加者	１０名（団体メンバー９名、西岡市長）		

対話の様子

対話では、八町大路火災からの復興を契機とした、商店街や城下町エリアの将来像、人の流れの創出、関係団体等の連携、跡地及び周辺施設の活用などについて意見交換が行われました。参加者からは、以下のようなお話やご意見がありました。

- 復興を考えるにあたっては、火災跡地のみを対象とするのではなく、八町大路全体、さらには城下町全体を面的に捉え、将来のまちのあり方を考える必要がある。
- 商店街、観光関係団体、民間事業者、行政などが、それぞれの立場や組織の違いを越えて情報を共有し、横断的に議論・連携できる場が必要である。
- 地元住民が気軽に訪れ、安心して過ごせる居場所や、学生、若者、移住者、地域事業者などが関わり合う機会をつくることが、将来的な関係人口の拡大や地域の担い手づくりにつながる。
- 市外・県外からの来訪者の増加に加え、まずは市民が八町大路を日常的に訪れ、まちの魅力に触れる機会を増やすことが重要である。
- 既存施設であるサーラ・デ・うすきについて、建物や芝生空間の魅力をより生かし、来訪者が入りやすく、日常的に人が集う場となるよう、入口の見せ方、案内表示、運営方法、夜間を含む活用のあり方を検討してほしい。
- 市内で生産される農林水産物等を活用し、地域で加工・販売することで、臼杵らしい商品づくりや商売の活性化につなげたい。臼杵の海の幸・山の幸や観光情報を発信する拠点として、道の駅の整備に対する市長の考えを聞きたい。
- 商店街では高齢化が進んでいるため、既存事業者から若い世代や新たな担い手へ、円滑に事業や地域への思いを引き継ぐ仕組みが必要である。

市長からは、以下のような話がありました。

- 八町大路火災からの復興に向け、参加者が継続的かつ熱意を持って議論を重ねていることに感謝している。火災という困難を、まち全体の活性化につながる機会としていきたい。
- 道の駅については、観光客の誘客や地域資源の発信に加え、地域コミュニティや防災の拠点としての機能も備えた多機能型施設を目指し、整備の可能性を検討している。今後、基本構想の策定に向けた予算を計上し、市民と合意形成を図りながら検討を進めたい。
- 皆さんが描く将来像を形にし、その考えに共感する人を一人でも多く増やしていくことが重要である。今後の報告や提案を受け止め、市としても必要な支援や連携を進めていきたい。

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。“市長と話そう”では、市民の皆様の声を聴き、一緒に考え、よりよい臼杵市の未来を描くため、今後もさまざまな団体と対話を行っていきます！



